

氏名

小川 晃

学位の種類 医学博士

学位授与番号 甲 第 656 号

学位授与の日付 昭和62年3月31日

学位授与の要件 医学研究科内科系内科学専攻

(学位規則第5条第1項該当)

学位論文題目 ヒト正常肝のレチクリン線維とグリソン氏鞘域間質物質の分離と  
その構成成分の検討  
—特にcollagen組成の差異について—

論文審査委員 教授 太田善介 教授 木村郁郎 教授 粟井通泰

## 学位論文内容の要旨

正常ヒト肝において肝小葉内間質物質(レチクリン線維, 間質物質(A))と小葉間間質物質(グリソン氏鞘域結合組織, 間質物質(B))とを分画調整し, これらの構成成分を検討した。金属メッシュ(メッシュサイズ1.0mm)上で肝を1回圧迫し, メッシュを通過した肝組織は肝小葉組織を主体とし, その後の圧迫操作でメッシュ上に残存した組織塊はグリソン鞘域の脈管を主体とした組織塊であった。これらより細胞成分を完全に除去し間質物質を調整した。調整した両間質物質はFreezer-millで粉碎した後, pepsin消化, 4M guanidine-HC1, pronase消化, 加水分解等により可溶化し構成成分を分析した。両間質物質のタイプ別コラーゲン組成を比較すると間質物質(A)ではI型コラーゲン29%, III型28%, その他(IV+V)の型43%であり, (B)ではI型42%, III型29%, その他の型29%であった。中性糖は間質物質(A) 12.6 mg/g, (B) 4.8 mg/g, ウロノ酸は(A) 3.1 mg/g, (B) 1.3 mg/gの含有を認めた。fibronectinは(A) 16.4 μg/g, (B) 3.4 μg/g, lamininは(A) 53.6 ng/g, (B) 157.0 ng/gであった。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は正常ヒト肝の肝小葉内間質物質と小葉間間質物質とを分画調整しそれらの構成成分を検討したもので, 両間質物質のタイプ別コラーゲン組成を比較すると前者ではI型コラーゲン29%, III型28%, その他(IV+V)の型43%であり, 後者ではI型42%, III型29%, その他の型29%であった。中性糖はそれぞれ 12.6 mg/g, 4.8 mg/g, ウロノ酸は

3.1 mg/g, 1.3 mg/g の含有を認め, fibronectin はそれぞれ  $16.4 \mu\text{g/g}$ ,  $3.4 \mu\text{g/g}$ , laminin は  $53.6 \text{ng/g}$ ,  $157.0 \text{ng/g}$  であった。これらは肝小葉内間質物質と小葉間間質物質との差異を明らかにした価値ある業績である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。